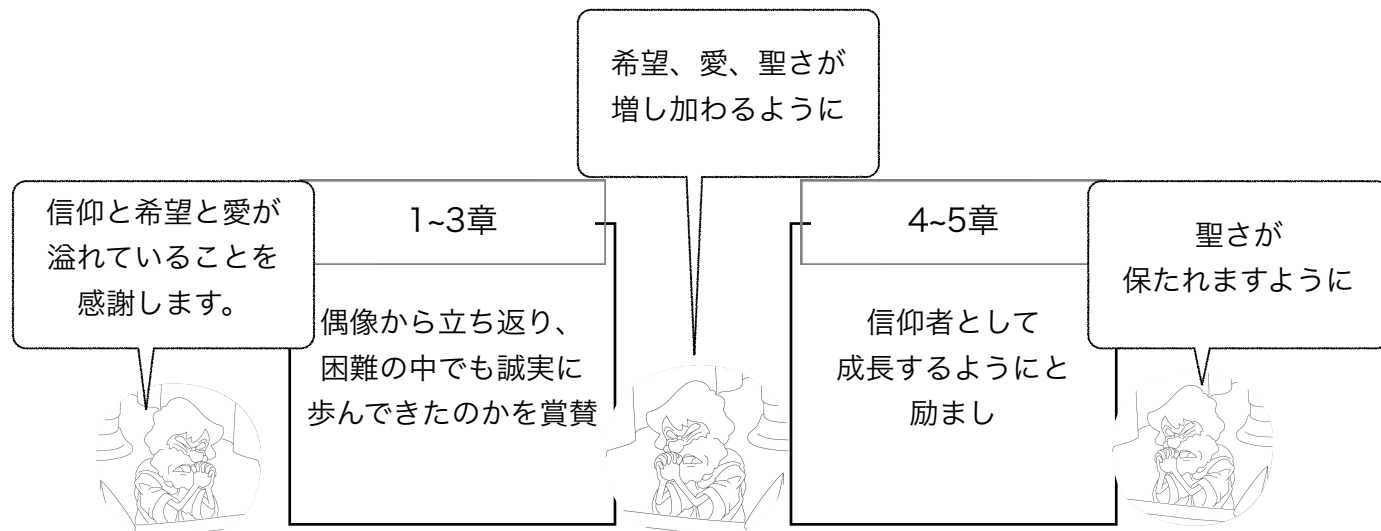


「私たちは、靈的ドクター」
テサロニケ人への手紙第一 5章14~15節

Ⅰ テサロニケの手紙の概要

テサロニケの教会ができた経緯:参照使徒17章



終わりに、兄弟たちよ。主イエスにあって、お願いし、また勧告します。あなたがたは、どのように歩んで神を喜ばすべきかを私たちから学んだように、また事実いまあなたがたが歩んでいるように、ますますそのように歩んでください。

Ⅰ テサロニケ4:1

パウロは、愛するテサロニケのクリスチャンたちが、ますます主が喜んでくださる歩みを進めていくようにと励まし、勧めをしている。

そして、テサロニケのクリスチャンたちが、主が喜んでくださる教会へと成長するために必要なことを教え、励ましている。

パウロが、テサロニケのクリスチャンたちに勧めた教会の中における責任について

12~13節：あなたと教会のリーダーとの関係における責任

14~15節：あなたと兄弟姉妹との関係における責任

16~22節：あなたと主との関係における責任

兄弟たち、あなたがたに勧告します。気ままな者を戒め、小心な者を励まし、弱い者の助け、すべての人に対して寛容でありなさい。

だれも、悪をもって悪を報いないように気をつけ、お互いの間で、またすべての人に対して、いつも善を行うように務めなさい。

Ⅰ テサロニケ5:14~15

兄弟たち、あなたがたにお願いします。あなたがたの間で労苦し、主においてあなたがたを指導し、訓戒している人たちを認めなさい。その務めのゆえに、愛をもって、深い尊敬を払いなさい。お互い間に平和を保ちなさい。

Ⅰ テサロニケ5:12~13

14~15節の働きを行うにあたり群れのリーダーを軽視して自分勝手に行うことは、正しいことではない。

14~15節は、12~13節と合わせて考え、実践すべきこと。しかし、群れのリーダーたちに任せっきりとするならば、14~15節のみことばを実践することを放棄してしまうことになる。

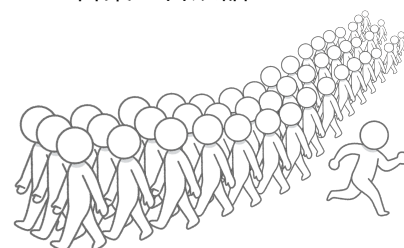
Ⅰ テサロニケ5:14~15を通して一人一人が、霊的なリーダーのアドバイスのもとに交わりの中で霊的ドクターとなり、教会がますます主が喜んでくださる教会へと成長する

1. 気ままな者を戒めること

a. 状態

「気ままな者」→「否定する言葉」＋「定まった位置に置く」という言葉の合成語で軍隊用語「軍隊の行進において、道を外れること。」

従うべき主のみことばに従わない「気ままな者」



b. 命令

「戒める」→責めることを教えている。

あからさまに責めるのは、ひそかに愛するのにまさる。

箴言27:5

2. 小さな者を励ますこと



a. 状態

「小さな者」→「小さな魂」

小さな者は、心配、恐れを抱く、落胆、希望を失い絶望している状態にある者。

テサロニケのクリスチャンたちの状況。

テサロニケの教会の中には、すでに亡くなった信仰者のことを思い煩っていた人々もいた。

眠った人々のことについては、兄弟たち、あなた方に知らないでいてもらいたくありません。

あなた方が他の望みのない人々のように悲しみに沈むことがないためです。

Ⅰ テサロニケ4:13

しかし、兄弟たち。あなた方は暗闇の中にはいないのですから、その日が、盗人のようにあなた方を襲うことはありません。あなた方は皆、光のこども、昼の子供だからです。私たちは、夜や暗闇の者ではありません。

Ⅰ テサロニケ5:4~5

自らの救いに確信を持てず、不安を感じていたことを示唆している。

b.命令

「励ましなさい。」

「励ます」→「慰め」とも訳されることがある。

「近い」＋「話す」合成語

父親のように側に寄り添って励ますパウロ

「また、ご承知の通り、私たちは父がその子どもに対してするように、あなたがた一人一人にご自身の御国と栄光とに召してくださる神に相応しく歩ように勧めをし、慰めを与え、厳かに命じました。」

Ⅰテサロニケ2:11~12

パウロは、真理のみことばをもって励ました。

眠った人々のことについては、兄弟たち、あなた方に知らないでいてもらいたくありません。あなたが他の望みのない人々のように悲しみに沈むことがないためです。

Ⅰテサロニケ4:13

3.弱い者を助けること

a.状態

弱い者→「力が全くない」「無力」

肉体的な弱さではなく「霊的な弱さ」

「弱さ」は、霊的な正しい知識が不足しており、霊的な判断における弱さ

参照：ローマ14:1～15:3やⅠコリント8章

「弱さ」ゆえにある人は、ここから「気ままな者」へと転じることもある。

「弱さ」ゆえに失望し「小心な者」へと転じることもある。

b.命令

「助けなさい。」→「世話をする。面倒を見る」



「弱い者をしっかりつかみなさい。」（ウォーレン・W・ワーズビー）

パウロは、テサロニケ滞在中、テサロニケのクリスチャンたちに母のように振る舞い、父のように接した。（Ⅰテサロニケ2章）そして、彼らは、パウロの生き様を見てきた。

弱い者の側に行き、みことばからどう生きるべきかを言葉をもって教え、生き様を模範として示すことで助けること。

4.すべての人々に寛容であること

「すべての人に対して寛容でありなさい。」

寛容→「怒る」＋「長い（遥か遠い）」

「気ままな者」「小心な者」「弱い者」様々な人に対してこの寛容または忍耐が必要。
だれも、悪をもって悪を報いないように気をつけ、お互いの間で、またすべての人に対して、
いつも善を行うように務めなさい。
Ⅰテサロニケ5:15

5. 悪をもって悪に報いないように気をつける



「返し」「言い負かしてやろう」などの悪に報いようとする誘惑が出る時…

「愛する者たち、自分で復讐してはいけません。神の怒りにゆだねなさい。こう書かれているからです。「復讐はわたしのもの。わたしが報復する。」主はそう言われます。」

ローマ12:19

「気をつける」→「見張る」「注視する」
隣人と交わるとき、隣人に仕えるとき「悪を持って悪に報いないように」常に自らの内側を見張り、自分の動機を吟味する必要がある。

6. お互いの間で、またすべての人に対していつも善を行うよう務める

「あなたがたを迫害する者たちを祝福しなさい。祝福すべきであって、呪ってはいけません。」

ローマ12:14

「務めなさい。」→「追跡する。」「追いかける」「迫害する」
パウロは、テサロニケのクリスチャンに「善を追及するように」と強く勧めている。